

パンタナル通信

南北米福地開発協会

会報

2008年9月1日

60号

家庭にて、パンタナルで育つニーム、モリンガ、ジャトロファの植樹を！！



7月23日播種、三日目に発芽、発芽後15日で平均35cmに生育したモリンガの苗(於:四国中央市)



7月23日播種、5日目に発芽、発芽後7日目で平均15cmに生育したニームの苗(於:四国中央市)

先日いただきましたモリンガとニームの種を蒔き育成中です。どちらも順調に育っていますので最初のレポートを入れます。

モリンガ

- * 7月23日、530粒播種、459本発芽（発芽率87%）
- * 7月26日発芽
- * 発芽後5日で15cm、15日で平均35cmに成長
- 発芽条件：最高気温35 前後、毎日給水、市販の腐葉土および遮光ネット使用（遮光率80%）

ニーム

- * 7月23日、65粒播種、51本発芽（発芽率78%）
- * 8月3日発芽
- * 発芽後7日で平均15cmに成長
- 発芽条件：モリンガと同じ

（地球の緑を守る会 高津理事長より）

今後の予定

* モリンガの苗をポットに移植する。

* ポット苗のままビニールハウスの中で越冬させる。

* 越冬の確認ができれば漸次規模を大きくして栽培する。

所感：静岡太平洋側、近畿南部、中・四国瀬戸内沿岸以南、九州地域ではビニールハウスでマンゴーを越冬させ、栽培が可能だということなので、おそらくモリンガも大丈夫と思われれます。現在、香川県三豊市周辺でビニールハウスを借りれるところを探しています。この地域は昔から花の栽培が盛んな所で、ビニールハウス群が多く見受けられるため、条件に適っていると思われる。（高津より）



奥平里美さん（学生）が植えたジャトロファ（ジャトロファがこんなに大きくなりました。）

レダよりの報告（飯野先生より）

今日八月十一日、マリア・アウキシラドーラに三石先生と行って来ました。

公道に沿って点在する三十軒ほどの小屋（家）に五十二家族が住んでいるとの

ことで、人口は不確かですが、百〜二百人くらいかと思われれます。

（村長も把握していない！）

コロニーの村長のような立場の人はデイダミアさん、四十二歳のコロツとしたおばさんでした。村の子供の数は六十人、その内の生徒は三十人ということでした。コミュニティのコンセンサスはよく出来ていないと言っていました。

十年前から入植している人もいます。四十年前から少しづつ増えたそうです。政府や直轄のオリンポ市はこの村をほとんど忘れていている感じです。

インフラは全く整備されていません。水はタハマルのたまり水を人も家畜も飲んでいました。電気は来ていませんが、家によっては自家発電機を持っているところもありました。掘立小屋のような家でも、パラボリアンテナ（テレビ用）が庭にデンと据え付けられているのを見ました。単車やトラックを持っているところもあります。が、公的なトラクターは故障で使えないと言っていました。

今最も必要とされているのは、無線ラジオ用のソーラ・パネルだとある婦人は言っていました。バッテリーが切れていて使えないため、電話も無く村は孤立しているからです。



第八回青年ボランティアが八月末に訪問する予定

学校は場所が変わっていました。新しいところは五〇〇mほどバイアネグラ寄りに行ったところにあります。一人の先生が月二〇〇ドルでアスンシオンから来ているそうですが、ちょうど数日間留守でアスンシオンに帰っているとのこと。学校は掘立小屋の二教室で黒板もありました。設備、雰囲気とも今まで訪問したインディヘナの村と同じです。共通してないのは、教科書、参考書です。もちろん文具類も不足しています。聞けば「なんにも無い！」と答えが即座に返ってきました。



期待して待つ子供たち

第8回国際協力青年ボランティア隊を迎える準備を整えているエスペランサ村

八月十日三石先生とエスペランサに行つて来ました。メインはボ隊の植樹の件です。カシケ（酋長）、学校長、他の村の人々を含めて話し合いと現場確認を行いました。

最初に七月、私と三石先生で「こういうボ隊の植樹活動の計画があるが、この村では受け入れ体制があるか」という交渉に行った時に説明したプランに基づき、村長は積極的に取り組んでいました。

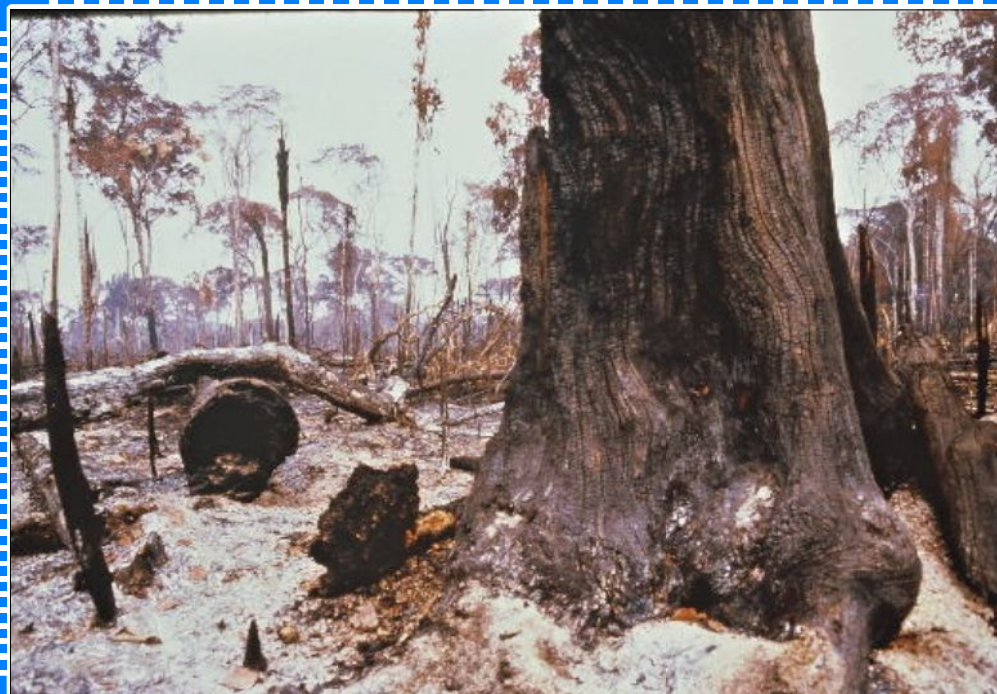
現状は、マウンド（ $80\text{cm} \times 80\text{cm} \times 70\text{cm}$ ）は既に三〇〇個以上造られていました。

森から枯葉や腐葉土を運んで来て入れてあると言っていました。

マウンドの場所は、大きく分けて三ヶ所、ひとつは学校敷地及び隣の協同組合が、金網の堀で囲まれていて、その内側に二十四個のマウンドが作られています。二つ目は、一ハの土地についてです。村の奥の方の空き地くらいに考えていましたが、何と船着場から上陸したすぐの正面の土地（東西四〇x南北七〇m）に、既に柵の柱を七〇本、門を二つ、造り終わっていました。アランブレーを十本通す予定で、各柱はドリルで穴が10個つつ開けられていました。村にとっては正に一等地、正面の顔になるところを公園のようにしたい考えです。

（飯野報告）





森林破壊の実態を環境セミナーで学び、植林活動を充実させて行きましょう。
 今日まで、人間を守り、育ててくれた地球の美しい環境を保持し、再生していくため、南米、パラグアイでの植林にご協力ください。
 環境セミナーに関心のある方は事務局に連絡
 くだされば詳しい案内状を送ります。



レダの支流に生息するカピバラの家族

(2008年8月飯野撮影)

日時 2008年9月21日(日)

午後2時から午後6時

場所 大山街道ふるさと館 3階 第二会議室

参加費 2,000円(資料)

研修内容

前半

「環境問題とパンタナール植樹活動」

NPO地球の緑を守る会 事務局長 戸石文夫

後半

「パンタナールエコツーリズムの魅力」

南北米福地開発協会 理事 岩澤春比古

多くの皆様の温かい第八回国際協力青年ボランティアへの御協力心から感謝します。
 八月二〇日、成田を出発します。パラグアイの隔絶された地域に住むインディヒナの村への植樹並びに学校教材、衣類を届けてまいります。九月五日に帰りますので十月号の紙上で報告致しますので期待してください。
 (柴沼より)



南北米福地開発協会 事務局
 〒221-0001 神奈川県川崎市高津区
 溝口三十一番十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二一

Fax

八二九一二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八 〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp